

# Suzuka - COOL CHOICE News

2021年(令和3年)  
8月25日水曜日  
鈴鹿市 環境政策課  
kankyoseisaku@city.suzuka.lg.jp

## コロナ禍をどう考えたか、危機から抜け出すためにいま必要をコト

新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、経済はもちろん、私たちの日々の暮らしにも大きな影響を与えました。そしてアフターコロナにおける私たちのライフスタイルは、もはやそれ以前のように地球環境にダメージを与えるような形では成立、持続しないといわれています。コロナ禍と環境破壊はどのように結びついているのか、そして新しい日常「ニューノーマル」を私たちはどのように生きていけばよいか、京都大学名誉教授で地球環境政策の専門家である松下和夫先生にお話をうかがいました。

### ワクチンの開発だけではコロナは終わらない

「いま、世界中で新型コロナウイルスに対するワクチンの開発競争が行われています。でも、ワクチンが開発されたらこのコロナ禍も解決できると考えるのは間違っています。21世紀に入ってから人類はSARS(重症急性呼吸器症候群)、MERS(中東呼吸器症候群)を経験し、今回の新型コロナウイルスで3回目です。これまでの人類史上にないほどパンデミックが頻繁に起こっています。その理由は何でしょうか。私たちが人類はこれまで、経済の発展に伴って自然界に多大な犠牲を強いてきました。開発による森林破壊、大量のCO2排出による地球温暖化が引き起こす気候変動などで自然が失われていくと同時に、本来あった人間と動物の境界線があ

あいまになったことで未知のウイルスが人間界にも襲い掛かるようになりました。その未知のウイルスは、グローバルゼーションの波に乗って世界中にもすこいスピードで拡散します。今回のコロナ禍も、2019年末に中国で発生したものが、もの数か月も経たないうちに世界中に拡散したことを、皆さんも目の当たりにしたはずですよ。さらに都市と地方の格差の問題もあります。都市に過度に人口、政治・経済機能が集中しているため、感染も都市で爆発的に広がりました。同様に経済格差も、治療を受けられる人と受けられない人、貧困の拡大などの影響を生み出しています。

つまりいま私たちが抱えている地球環境やグローバル



### 「グリーン・リカバリー」が世界のトレンドだ

「現在のおくなき開発競争とグローバルゼーションによる経済発展は、もはや限界にきているといわれています。それではアフターコロナに臨む政治・経済体制とは何か。そこで最近注目されているのが『グリーン・リカバリー(緑の復興)』です。

『グリーン・リカバリー』はこれまでの経済・生活のあり方に戻るのではなく、自然と共生することにより、持続可能で強靱な経済・消費活動を行う運動です。国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)ともリンクする復興策なのです。具体的にはカーボン・ニュートラル(二酸化炭素排出量実質ゼロ)な世界を目指して、化石燃料偏重の産業の構造を変え、新しい雇用の創出とイノベーションを促進することを目標とします。また人々の暮らしにおいても、これまでの消費行動を見直し、地産地消や食品廃棄の削減、再生可能エネルギーへの転換、働き方の改革などがこの『グリーン・リカバリー』とセットになります。この『グリーン・リカバリー』の実行により、これまではパンデミックで一気に機能不全に陥っていた私たちの日常を、耐性(レジリエンス)の高いものへと生まれ変わることを目指しているのです。

実際にはEUでは、新型コロナウイルスが発生する以前の2019年12月に『欧州グリーン・ディール』という環境政策とパッケージとなった成長戦略を発表しました。その後「コロナ禍でヨーロッパ全体が経済的に大きな打撃を受けたのにもかかわらず、この『欧州グリーン・ディール』を推進し、約120兆円規模の投資計画を策定、その動きはEU以外の国にも広がっています。つまり、持続可能で強靱な経済・消費活動を行う運動です。国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)ともリンクする復興策なのです。具体的にはカーボン・ニュートラル(二酸化炭素排出量実質ゼロ)な世界を目指して、化石燃料偏重の産業の構造を変え、新しい雇用の創出とイノベーションを促進することを目標とします。また人々の暮らしにおいても、これまでの消費行動を見直し、地産地消や食品廃棄の削減、再生可能エネルギーへの転換、働き方の改革などがこの『グリーン・リカバリー』とセットになります。この『グリーン・リカバリー』の実行により、これまではパンデミックで一気に機能不全に陥っていた私たちの日常を、耐性(レジリエンス)の高いものへと生まれ変わることを目指しているのです。

また再生可能エネルギーだけで企業活動を運営することを目標とする国際的な企業連合「RE100」には、アップル、マイクロソフト、フェイスブック、グーグルなど世界をリードする大手「企業」名を連ね、日本企業も多く参加しています。さらに、環境、社会貢献、企業統治に配慮した企業投資を『ESG投資』は、全世界の投資額の4分の1以上も占めています。このことから『グリーン・リカバリー』が世界のトレンドになりつつあることは間違いありません。」

環境省が開発しているクールチョイスアプリのダウンロードはこちらから!! 画面をアップすれば読み込めます。

環境省が開発しているクールチョイスアプリのダウンロードはこちらから!! 画面をアップすれば読み込めます。

Get it on Google play

Download on the App Store

※本文については、環境省のCOOL CHOICE編集部の記事を引用しております。

続きは <https://ondan.kataisaku.env.go.jp/>

ず、この『欧州グリーン・ディール』を推進し、約120兆円規模の投資計画を策定、その動きはEU以外の国にも広がっています。つまり、持続可能で強靱な経済・消費活動を行う運動です。国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)ともリンクする復興策なのです。具体的にはカーボン・ニュートラル(二酸化炭素排出量実質ゼロ)な世界を目指して、化石燃料偏重の産業の構造を変え、新しい雇用の創出とイノベーションを促進することを目標とします。また人々の暮らしにおいても、これまでの消費行動を見直し、地産地消や食品廃棄の削減、再生可能エネルギーへの転換、働き方の改革などがこの『グリーン・リカバリー』とセットになります。この『グリーン・リカバリー』の実行により、これまではパンデミックで一気に機能不全に陥っていた私たちの日常を、耐性(レジリエンス)の高いものへと生まれ変わることを目指しているのです。